

一般社団法人
日本看護系学会協議会
ニュースレター
JANA

第26号

2019年3月25日 発行

編集発行

日本看護系学会協議会

(事務局) 〒673-8588

兵庫県明石市北王子町13-71

公立大学法人 兵庫県立大学 看護学部内

日本看護系学会協議会 事務局

E-mail: jana-jim@cnas.u-hyogo.ac.jp

FAX: 078-925-9433

会長からのメッセージ

一般社団法人 日本看護系学会協議会
会長 片田 範子



2018年度も残すところわずかとなりました。社員学会の皆様におきましては、次年度を見越した様々な活動に取り組んでいる頃と思います。日頃の活動が、各社員学会の発展の基盤となりますことを、祈念いたします

2019年2月現在、日本看護系学会協議会(JANA)の社員は、47学会で構成されております。本年度は、3学会が新たに社員となりました。ニュースレターの創刊号発刊時(2002年)は26学会でしたが、その後16年を経て、21学会が新たに参画して下さいました。

規模の拡大と社会情勢の変化を受け、本年度は、今後のJANAの目的を明確にすべく、本協議会の歴史と事業内容を振り返り、将来構想の検討に取り組んで参りました。この検討を通して社員学会の皆様には、事業内容と予算規模の拡大を提案し、多くのご意見を頂きました。本件は、2019年度社員総会にて提案できるよう、継続して検討を進めているところです。

この過程で、JANAの変遷と事業内容を次頁の表の通り整理し、社員学会の皆様へ配信しました。同時に、社員学会の皆様には、JANAに期待すること、役割、行うべき活動等について調査をさせて頂きました。ご意見を下さいました社員学会の皆様には、心より御礼申し上げます。頂きましたご意見は整理をして、社員学会へ配信しております。理事会では、各事業に対するご意見をもとに、定款を確認しつつ、次年度の事業の方針を検討しております。その中の一つに、研究者倫理(二重投稿などを含む)に関する課題があり、早急に社員学会と情報や対応の共有が必要な課題と判断して、次年度の活動に組み込む予定としました。この度のご意見は、今後のJANAの基盤づくりにおいて、なくてはならない内容であったと思います。引き続きのご協力を、どうぞよろしくお願い申し上げます。

本年度は、看護学が国の制度の変革に影響を受けた年でもありました。その一つに「科学研究費審査システム」があります。この影響を把握すべく、公的研究費拡大推進事業では臨時総会同日にシンポジウム「科研費審査システム改革と看護」を開催し、また日本看護系大学協議会と共同して、【科研費審査システム改革2018の影響に関する調査】を行いました。看護学領域からの申請と採択状況、新たなシステムにおける課題と対応について、複数の方法で皆さまに還元する予定です。

公的研究費は、政策の方針、つまり社会情勢にもとづく学術の課題と密接に結びついております。日本学術会議は、日本における大型研究計画のあり方に関する指針の基盤となるマスタープランを募集して国へ提言しています。今期のマスタープラン(2020)への提案には、看護学からも他領域と共同して提案する計画を立てており、JANAの理事会の後(3月10日)にこの計画の説明会と意見交換会を行い、活発な意見交換をすることが出来ました。

医療安全推進における他機関との協力事業は、担当理事が日本医療安全調査機構の総合調査委員となり、連携を継続して進めています。併せて、医療事故調査制度による院内調査への専門家推薦に対する協力を行っており、本年度は社員学会から多くの皆様に、医療事故対策にご尽力頂きました。推薦にご協力下さいました社員学会、および専門委員としてご尽力下さいました皆様に、心より御礼申しあげます。この役割を通して、今後も看護学の知が社会に還元できることを期待します。

本年度は、APN実践推進プロジェクト事業として、「ケアガイドライン」に関する調査等にもご協力いただきました。「ケアガイドライン」作成は、単独の学会での取り組みが難しいとされております。そのため、調査結果を参照しつつ、複数の社員学会で共同してガイドライン作成を行うことをめざしたワークショップを企画し、開催しました。詳細は、ニュースレター速報をご覧ください。

日本学術会議の防災学術連携体との連携活動事業は継続しています。3月12日には「平成30年夏に複合的に連続発生した自然災害と学会調査報告」が開催され、日本公衆衛生看護学会、日本災害看護学会、日本赤十字看護学会、日本看護系学会協議会からも発表がされています。

継続している多くの活動につきましては、その都度、ニュースレター速報、およびホームページで紹介いたします。どうぞご覧ください。

最後になりますが、今期は、選挙が行われました。新体制へとスムーズに移行できるよう、役員が一丸となって議論および事業内容の検討を続けております。31年度の総会は6月23日(日)に日本赤十字看護大学にて開催を予定しております。総会後のセッションについて4月中には皆さんへ発信できるよう理事会で検討中です。活発なご参加をよろしくお願い致します。



➤ **看護学の発展に向けてJANAがめざすこと**

看護学の学術的発展をめざす看護系学会の相互交流と連携をはかり、看護学研究の成果を社会に還元する学会活動を支援し、また看護学学術団体の立場から、人々の健康と生活の質の向上のため国や社会に向かって必要な提言を行う。

➤ **JANAのこれまでの変遷**

看護学の学術的発展のためには、そこに関わる研究者全体としての組織化が不可欠であり、そのために「日本看護系学会協議会」が2001年に設立された。

- 1975年 日本看護系大学協議会(JUNPU)発足(6大学)
- 1981年 JANPUにより日本看護科学学会(JANS)を設立
- 1982年 JANSに日本学術会議・協会登録推進委員会を設置
→日本学術会議登録学術研究団体に申請
- 1987年 JANS:日本学術会議登録学術研究団体となる
- 1987年 JANS内の日本学術会議・協会登録推進委員会が日本学術会議対策委員会に名称変更、後に、JANS看護学学術基盤整備委員会へ
- 2000年 看護学研究連絡委員会設置(第18期日本学術会議)
- 2001年 日本看護系学会協議会(現JANA)(23学会)
- 2005年 看護界初の日本学術会議会員(南裕子氏)
- 2008年 JANS看護学学術基盤整備委員会の会務をJANAに継承し、委員会活動を終了
- 2015年 一般社団法人日本看護系学会協議会(JANA)へ
- 2018年 社員学会数は47学会へ

➤ **JANAの主な事業**

以下の5つの事業を柱として活動を行っている

1. 社員相互の情報交換：ニュースレター発行、ホームページ管理
2. 日本学術会議及び国内外の学術組織との相互交流：医療安全推進、災害看護の学会連携
3. 看護系の学会活動の支援：公的研究費拡大推進、APN実践推進プロジェクト
4. 国や社会に向けての必要な提言：＜近年の活動＞を参照
5. 本法人の目的達成に必要な事業：＜これからの課題＞を参照

➤ **JANAの近年の活動**

【国や社会に向けた見解・声明の発信】

- 2011年5月 提言「高度実践看護師としての特定看護師(仮称)の能力」
- 2012年6月 「看護師特定能力認証にかかわるカリキュラムの考え方(案)」に関する要望書の提出
- 2017年3月 「科学研究費助成事業(科研費)審査システム改革2018」に関する意見提出
- 2017年7月 日本学術会議「軍事的安全保障研究に関する声明」を受けて

【シンポジウムの企画を通して社員学会への情報提供】(JSC看護分科会、JANPU などと連携)

- 2014年3月 「ケアサイエンスの必要性と看護の役割」
- 2016年7月 「ケアサイエンスとは何か、その必要性を議論する」
- 2017年12月 「医療事故調査制度を知ろう～運用開始から1年を振り返って～」
- 2017年3月 「安全保障と学術の問題に看護はどう取り組むか」
- 「分野別賞保証のための教育課程編成上の参照基準」
- 2017年12月 「地方創生時代の看護系大学のチャレンジャー看護学の変革と課題」
- 2018年6月 「高度実践看護師の裁量権拡大を考えると健やかな超高齢化社会の実現に向けて」

➤ **JANAのこれからの課題**

1. 看護学の学術的発展を支えるため、看護学研究の環境を改善・整備する。
2. 看護学研究の成果を効果的に社会に還元するため、学会横断的な仕組みを構築する。
3. 看護系学会を代表する立場から、人々の健康や生活の質の向上のため、国や社会に向けて積極的に提言する。



高度実践看護師の裁量権拡大を考える

— 健やかな超高齢社会の実現へ向けて —



APN実践推進プロジェクト担当理事 本田 彰子 岡谷 恵子

平成30年度JANA社員総会に引き続き、公開シンポジウムを開催いたしました。多くの人々がケアを受けながらコミュニティで暮らし続ける時代となり、医療から健康支援まで卓越したケア提供を行う高度実践看護師の裁量権が拡大され、幅広い領域でその専門性が発揮されることが求められます。我が国の看護教育界では、既に2,777名の専門看護師を輩出し、日本看護系大学協議会はナースプラクティショナー教育課程認定を開始し、日本NP教育大学院協議会も教育育成を実施しています。このような高度実践看護師の教育育成が推し進められている中、日本学術会議は裁量権拡大に言及した提言を発表しているものの、未だ裁量権に関わる法改正には至っていないのが現状です。

シンポジウムでは、現行法の中で医師との信頼関係の下で裁量権を最大限活用している実践者の報告を交え、今後必要となる法改正を見据えた意見交換を行いました。

北里大学看護学部／北里大学附属病院看護部のがん専門看護師 松原康子氏は、大学病院において、入院期間が短くなっているがん治療を受ける人々の治療や療養の変わりようを示し、がん専門看護師の活動の場が外来や退院調整など地域ベースとなること、また、複雑かつ困難なケースへの対応、医療者間の調整、在宅療養への移行、地域医療チームの支援等、専門分化した医師の視点を超え、経過や療養場所を含め、人々を包括的に捉えて支援する専門職の役割をご説明下さいました。

在宅ケアセンターあたご統括所長の在宅看護専門看護師 安岡しずか氏は、看護職主体で地域包括ケアを担う事業所を創設発展させてきた経緯を踏まえ、在宅専門看護師の役

割を説明し、医療的ケア児の在宅療養支援体制を上げる実践例やすい臓がん末期療養者の見取りに向けた意思決定の実践例を用いて、医師の包括指示のもと訪問看護が実施した医療行為を振り返り、医療処置実施に向けて連携の提案をされました。

日本学術会議連携員看護学分科会の井上智子氏は、看護の役割拡大に関する検討会等の経緯を踏まえ、「看護職の役割拡大が安全と安心の医療を支える」「高度実践看護師制度の確立に向けて—グローバルスタンダードからの提言—」の学術会議による2つの提言を説明し、今後、どのような方向に看護界が向かうべきなのか、またその課題について言及されました。

本協議会では、これまで看護職が自立して専門性の高い実践活動できる体制や制度、教育環境を作り上げるべく活動してまいりました。シンポジウムでのそれぞれご専門の立場からのご発言は、現状と課題を改めて実感させると同時に、APN実践推進プロジェクトがさらに向かうべき方向を示して下さるものでありました。今後、高度実践看護師の実像を保健医療福祉の領域にとどまらず、多くの人々に提示し、新たな看護職のあり様として「高度実践看護師」がこれからの社会に定着するためには、看護系学会が専門領域を超え、相互に交流をはかり、一丸となって活動することが必要であると考えます。

これからは、会員学会の中で開発、発展させてきた数々の看護実践の知見を、本プロジェクトを通してまとめ上げ、高度実践看護師の高い専門性を広く社会に発信していく所存です。どうぞ、今後ともご協力お願い申し上げます。

科研費審査システム改革と看護



公的研究費拡大推進担当理事

鎌倉 やよい 野嶋 佐由美

科研費審査システム改革2018では、審査区分が「大区分・中区分・小区分」となり、研究課題にふさわしい区分を選択することが示されました。この改革によって、申請時には関連する学術分野間で競合すること、若手研究者の定義変更に伴い応募要件が変更されたこと等、看護学分野への影響が懸念されました。

2018年10月27日の臨時総会後に、日本学術振興会学術システム研究センター専門研究員の松田ひとみ氏（筑波大学医学医療系）から、「競争的外部資金の獲得：科研費審査システム改革と看護」をテーマに講演を行っていただきました。講演では、科研費のしくみとその変化、審査・交付業務の移管を受けた日本学術振興会の組織と役割、科研費

の改革、科研費と看護の動向、看護研究を行う若手研究者等について、データに基づいた詳細な説明がなされました。

質疑では、科研費の改革によって審査区分が変わり、他分野と同じ区分で評価を受けることになった点について、改革の意図に関連した質問が出されました。回答として、看護学分野が他分野と競合するとの視点ではなく、関連研究を進展させる視点から、多分野でコラボレーションをして、共同して申請していく可能性を検討してはどうか、との考えが示されました。

講演資料はJANAのHP (<http://www.jana-office.com/sympo/index.html>) に掲載のPPを参照して下さい。

日本看護系学会協議会の

日本医療安全調査への貢献と今後の課題



医療安全推進における他機関との協力担当理事

佐藤 紀子

2018年12月16日（第38回日本看護科学学会学術集会後）に、ひめぎんホールにて開催された。シンポジストは、日本医療安全評価機構から畑京子氏（日本医療安全調査機構、事業部参事）、専門分析部会委員の立場から石渡祥子氏（日本看護管理学会、成田赤十字病院看護部長・副院長）に話題提供をしていただきました。

畑氏からは、「医療事故調査制度」が平成27年10月より施行されたこと、この制度のもとで日本医療安全調査機構は医療事故調査・支援センターとしての役割を担っていること、および医療事故報告の内容、医療事故調査の流れ、再発防止の提言と看護系学会等の役割について報告がありました。今後の課題として、①具体的な報告事例を活用いただけるシステムとなること、②死亡事例から学んだ知見を蓄積し、次の世代に伝えること、③現場と教育へのフィードバックの方法などを検討していることが報告されました。なお、日本医療安全調査機構については、<https://www.medsafe.or.jp/>も参照して下さい。

石渡氏からは、再発防止委員会の下位部会である専門分析部会の役割として、専門的見地からの詳細分析および医療機関の体制・規模に配慮した再発防止策、医療事故の再

発防止に向けた提言があること、専門分析部会のメンバーや会議の回数、取り扱う事例の概要、事故防止策の検討について、報告されました。加えて、専門分析部会における看護職の役割について意見を述べられました。

質疑応答では、個別調査部会ならびに専門分析部会への学術的な立場からの委員の推薦にあたって、二つの学会から具体的な方策についての情報提供がありました。また、各事故事例における看護職にとっての再発防止への示唆をどのように情報共有すべきかについて意見が交わされました。

【担当理事の所感】

担当理事として、毎月開催される、総合調査委員会に出席しています。委員会の構成は10数名の医師と薬剤師1名、弁護士2名、患者の家族（遺族）1名、そして看護系から1名という構成であり、看護職はすべての医療事故に関与しています。チーム内のコミュニケーションの推進、生命徴候の変化を見逃さない実践、患者・家族の声への誠実な応答、与薬や吸引などの基礎的な技術の確実性が再発予防策として呈示されています。これらを社員学会に伝達・情報共有することがこれからの課題です。

社員学会紹介

日本産業看護学会

(Japan Academy of Occupational Health Nursing)

理事長 河野 啓子

皆様、はじめまして。

2018年6月に46番目の社員として加入を認めていただきました、日本産業看護学会でございます。

産業看護は、他の看護分野に比べて、歴史が浅いこともあり、一般に知られることが少なかったと思います。しかしながら、働く人々の健康課題が、じん肺や職業がんといった職業性疾患対策から過重労働対策・メンタルヘルス対策に移行した現代にあっては、看護の理念に基づいたきめ細やかな健康支援が重要性を増し、産業看護職への期待が高まっております。それに加えて、超高齢・少子社会にあっては、労働力人口が減少し、しかも高齢化しているため、このままでは生産性の低下を招き、社会の活力が失われるということで、労働者の心身の健康づくりを経営の重要な柱として位置づける「健康経営」が、クローズアップされております。ここでも、ファースト・ライン・プロフェSSIONALとして対象者、対象集団、対象組織に対し、きめ細やかな健康支援を行う産業看護職への期待が大きくなってきております。その期待に応えるためには、産業看護学の学問体系を構築し、それに則った教育を行い、実践能力の高い看護職の養成が欠かせません。

また、「労働」を十分に考慮した看護については、企業等における産業看護職による実践の蓄積の知見を統合し、看護界全体に提供する役割が私たち産業看護の分野にはあると思っております。一億総活躍時代にあっては、どの看護分野であってもその対象のほとんどは働く人々ですので、看護の質をさらに高めるために、この役割を果たすことが今後の課題と考えております。

従来から日本産業衛生学会産業看護部会において、これらの課題が検討されてきましたが、多職種からなる学会の部会活動では本協議会（JANA）への加入資格がなく、産業看護学の発展に欠かせない、他の看護分野との連携がとりにくいなど限界があり、看護職を主体とした学会を望む声が強くなって参りました。そこで、2012年12月に、「産業看護学の発展と高度な実践能力の開発により、社会に貢献すること」を目的として、本学会を設立いたしました。まだまだ未熟な学会ではございますが、この目的達成に向けて、学会員全員で努力を重ねております。さまざまな看護分野の先輩社員の皆様のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

【役員】

会長

片田 範子

副会長

岡谷 恵子

理事

太田 喜久子（日本学術会議・学協会との協力：2018年度総会まで）

小松 浩子（日本学術会議・学協会との協力：2018年度総会より）

鎌倉 やよい（公的研究費拡大推進）

佐藤 紀子（医療安全推進における他機関との協力）

武村 雪絵（会計）

西村 ユミ（広報・ニュースレターの発行）

野嶋 佐由美（公的研究費拡大推進）

本田 彰子（APN実践推進プロジェクト）

山本 あい子（災害における看護の学会連携）

守田 美奈子（広報・ホームページの管理）

小西 美和子（庶務）

監事

高田 早苗

宮腰 由紀子

—編集後記—

2018度は、これまでのJANAの歴史を振り返り、今後の活動を計画する1年となりました。広報担当では、社員学会の皆様へ、こうした理事会での議論の経過をお届けできるよう、ニュースレター速報を配信して参りました。本ニュースレターは、4件の速報を含めた1年間の活動の積み重ねをまとめたものとなります。

ニュースレター速報をまとめる作業は、毎回の理事会の復習をすることになり、このたびのニュースレター第26号は、1年のJANAの活動、ひいては看護学の動向を振り返る機会となりました。貴重な機会を社員学会の皆様と共有でき、うれしく思います。

新たに社員学会となった新理事長の皆様には、ご挨拶とメッセージを頂きました。ご協力に対し、この場をお借りして御礼申し上げます。

引き続き、情報の提供と社員学会間の連携の機会を作る取り組みを進めていきたいと思っております。1年間の活動へのご協力、ありがとうございました。

（広報担当理事 西村ユミ）

H30年度（2018年度）日本看護系学会協議会社員学会

2019年2月末日現在

学 会 名	理事長	学 会 連 絡 先						ホームページアドレス
		郵便番号	学会連絡先住所	学会TEL	学会FAX	学会E-mail	宛先(担当者)	
1 公益社団法人 日本看護科学学会	鎌倉やよい	113-0033	東京都文京区本郷3-37-3 富士見ビル201	03-5805-1280	03-5805-1281	office@jans.or.jp	山本 則子	http://jans.umin.ac.jp/
2 一般社団法人 聖路加看護学会	松谷美和子	104-0044	東京都中央区明石町10-1 聖路加国際大学内	03-3543-6391	03-5565-1626	slnr@slcn.ac.jp	松谷美和子	http://slnr.umin.jp/
3 一般社団法人 日本がん看護学会	雄西智恵美	550-0001	大阪府大阪市西区土佐堀1丁目1番23号 コウタイ肥後橋ビル3階D号室 日本がん看護学会事務局		06-6447-2877	info@jscn.or.jp	森本 悦子	http://jscn.or.jp/
4 一般社団法人 日本看護学教育学会	佐藤 紀子	100-0003	東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル9F ㈱毎日学術フォーラム内	03-6267-4550	03-6267-4555	maf-jane@mynavi.jp	佐藤 紀子	http://www.jane-ns.org
5 一般社団法人 日本看護管理学会	上泉 和子	150-0013	東京都渋谷区恵比寿3-29-17 サンシティービル201号室 一般社団法人日本看護管理学会 管理事務所	03-6721-6803	03-6721-6823	kaikci@janap.jp	上泉 和子	http://janap.umin.ac.jp
6 一般社団法人 日本看護研究学会	宮腰由紀子	170-0002	東京都豊島区巣鴨1-24-1 第2ユニオンビル4階 ㈱ガリレオ 学会業務情報化センター内 一般社団法人日本看護研究学会事務局	03-3944-8236	03-5981-9852	g027jsnr-mng@ml.gakkai.ne.jp	宮腰由紀子	http://www.jsnr.jp
7 一般社団法人 日本救急看護学会	松月みどり	164-0001	東京都中野区中野2-2-3 ㈱へるす出版事業部内	03-3384-8030	03-3380-8627	jaen@herusu-shuppan.co.jp;	石坂 今成	http://jae n .umin.jp
8 一般社団法人 日本クリティカルケア 看護学会	山勢 博彰	164-0001	東京都中野区中野2-2-3 ㈱へるす出版事業部内 一般社団法人日本クリティカルケア 看護学会 事務局	03-5312-7433	03-5312-7434	jaccn_jimu@herusu-shuppan.co.jp	今成・石坂	http://jaccn.umin.jp/
9 一般社団法人 日本公衆衛生看護学会	麻原きよみ	602-8048	京都市上京区下立売通小川東入る西大 路町146番地 中西印刷㈱内	075-415-3661	075-415-3662	japhn@nacos.com		http://plaza.umin. ac.jp/~JAPHN/
10 一般社団法人 日本小児看護学会	奈良岡美保	100-0003	東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル 株式会社毎日学術フォーラム内	03-6267-4550	03-6267-4555	maf-jschn@mynavi.jp	堀田 法子	http://jschn.umin.ac.jp/
11 一般社団法人 日本助産学会	高田 昌代	170-0002	東京都豊島区巣鴨1-24-1 第2ユニオンビル4階 ㈱ガリレオ 学会業務情報化センター内 一般社団法人 日本助産学会事務局	03-5981-9826	03-5981-9852	g019jam-mng@ml.gakkai.ne.jp	高田 昌代	http://square.umin.ac.jp/ jam/
12 一般社団法人 日本精神保健看護学会	永井 優子	162-0801	東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター	03-5389-6254	03-3368-2822	japmhn-post@bunken.co.jp	萩野 雅	http://www.japmhn.jp/
13 一般社団法人 日本創傷・オストミー・ 失禁管理学会	田中 秀子	169-0072	東京都新宿区大久保2丁目4番地12号 新宿ラムダックスビル㈱春恒社 学会事業部内 日本創傷・オストミー・ 失禁管理学会事務局	03-5291-6231	03-5291-2176	etwoc@shunkosha.com	田中 秀子	http://www.jwocm.org/
14 一般社団法人 日本地域看護学会	宮崎美砂子	162-0825	東京都新宿区神楽坂4-1-1 ㈱ワールドプランニング内 日本地域看護学会事務センター	03-5206-7431	03-5206-7757	ckango@zfhv.ftbb.net	筒井 愛	http://jachn.umin.jp/
15 一般社団法人 日本糖尿病教育・看護学会	正木 治恵	170-0002	東京都豊島区巣鴨1-24-1 第2ユニオンビル4階 ㈱ガリレオ 学会業務情報化センター内 一般社団法人日本糖尿病教育・看護学 会事務局	03-5981-9824	03-5981-9852	g015jaden-mng@ml.gakkai.ne.jp	正木 治恵	http://jaden1996.com/
16 一般社団法人 日本母性看護学会	鈴木 幸子	170-0002	東京都豊島区巣鴨1-24-1 第2ユニオンビル4階 ㈱ガリレオ 学会業務情報化センター内 一般社団法人 日本母性看護学会事務局	03-5981-9824	03-5981-9852	g031jsmn-mng@ml.gakkai.ne.jp	大月恵理子 定方美恵子	http://bosci.org/
17 一般社団法人 日本循環器看護学会	吉田 俊子	112-0012	東京都文京区大塚5-3-13 小石川アーバン4F 一般社団法人学会支援機構内	03-5981-6081	03-5981-6012	jacn@asas-mail.jp	山下 穰	http://www.jacn.jp/
18 高知女子大学看護学会	野嶋佐由美	781-8515	高知県高知市池2751-1 高知県立大学看護学部内	088-847-5524	088-847-5524	kwuonaddress@cc.u-kochi.ac.jp	有田 直子	http://www.kochi-wu. ac.jp/~nsgakkai/index.html
19 千葉看護学会	石丸 美奈	260-8672	千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1 千葉大学看護学部内	043-226-2426	043-226-2426	cans-adm@umin.ac.jp	石丸 美奈	http://cans.umin.jp/
20 日本アクション 看護学会	日下 修一	152-8558	東京都目黒区東ヶ丘2-5-1 東京医療保健大学東が丘・立川看護学部 田中留伊 研究室内	03-5779-5032 (内線506)		jadict-office@umin.ac.jp	田中 留伊	http://plaza.umin. ac.jp/~jaddictn/
21 日本運動器看護学会	吉田 澄恵	113-0033	東京都文京区本郷4-1-5 石渡ビル5F 株式会社アクセライト内	03-6801-6180	03-6801-6091	jsmn@accelight.co.jp	鈴木・大田	http://www.jsmn.jp
22 日本家族看護学会	野嶋佐由美	100-0003	東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル9F ㈱毎日学術フォーラム内	03-6267-4550	03-6267-4555	maf-jarfn@mynavi.jp	小野 智子	http://square.umin.ac.jp/ jarfn/
23 日本看護医療学会	浅野みどり	461-8673	名古屋市中区大幸南1-1-20 名古屋大学大学院医学系研究科213号室 「日本看護医療学会事務局宛」	052-719-3158	052-719-3158	info@jsnhc.org	三 尾	http://www.jsnhc.org
24 一般社団法人 日本看護技術学会	武田 利明	169-0072	東京都新宿区大久保2丁目4番地12号 新宿ラムダックスビル9F ㈱春恒社学会事業部	03-5291-6231	03-5291-2176	jsnas@shunkosha.com	武田 利明	http://www.jsnas.jp/
25 日本看護教育学会	山下 暢子	260-8672	千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1 千葉大学大学院看護学研究科 看護教育学教育研究分野気付	043-226-2397	043-226-2397	jasne-office@yahoo.co.jp	中山登志子	http://jasne.umin.jp
26 日本看護診断学会	江川 隆子	160-0022	東京都新宿区新宿1-15-11 イマキイビル ㈱グローバルエクス プレス・国際会議センター内	03-3352-6223	03-3352-5421	jsnd@convention-access.com	任 和子	http://jsnd.umin.jp/

学 会 名	理事長	学 会 連 絡 先					宛先(担当者)	ホームページアドレス
		郵便番号	学会連絡先住所	学会TEL	学会FAX	学会E-mail		
27 日本看護福祉学会	岡崎美智子	865-0062	熊本県玉名市富尾888番地 九州看護福祉大学看護福祉学部 社会福祉学科 吉岡久美研究室	0968-75-1891	0968-75-1891	kumish@kyushu-ns.ac.jp	吉岡 久美	http://kangofukushi.sakura.ne.jp/
28 日本看護倫理学会	八代 利香	162-0801	東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター 株式会社国際文献社内	03-5937-5644	03-3368-2822	jnea-post@bunken.co.jp	小高 雅美	http://jne.umin.jp/
29 日本看護歴史学会	佐々木秀美	737-0004	広島県呉市阿賀南2-10-3 広島文化学園大学内	03-3409-0190	0823-74-5722	k-okada@hbg.ac.jp	岡田 京子	http://plaza.umin.ac.jp/~jahsn/
30 一般社団法人 日本災害看護学会	山本あい子	170-0002	東京都豊島区巣鴨1-24-1 第2ユニオンビル4階 ㈱ガリレオ 学会業務情報センター内 日本災害看護学会事務局	03-5981-9824	03-5981-9852	g034jsdn-mng@mlgakkai.ne.jp	三浦 英恵	http://www.jsdn.gr.jp/
31 一般社団法人 日本在宅ケア学会	亀井 智子	162-0825	東京都新宿区神楽坂4-1-1 オザフビル2F ㈱ワールドプランニング内 日本在宅ケア学会事務センター	03-5206-7431	03-5206-7757	jahc@zfhv.ftbb.net	西山 真澄	http://www.jahhc.com/
32 日本手術看護学会	石橋まゆみ	113-0033	東京都文京区本郷3-19-7 本郷三宝ビル4F	03-3813-0485	03-3813-0539	jona@yacht.ocn.ne.jp	星 正行	http://www.jona.gr.jp/index.shtml
33 日本新生児看護学会	宇藤 裕子	594-1101	大阪府和泉市室堂町840 大阪母子医療センター看護部内 日本新生児看護学会事務局	080-4839-0071	0725-55-6701	info@jann.gr.jp	宇藤 裕子	http://www.jann.gr.jp/
34 一般社団法人 日本腎不全看護学会	佐藤 久光	231-0005	神奈川県横浜市中区本町6-52 本町アンバービル305	045-226-3091	045-226-3092	jinfuzen-n@giga.ocn.ne.jp	佐藤 久光	http://ja-nn.jp/
35 日本生殖看護学会	上澤 悦子	104-0044	東京都中央区明石町10-1 聖路加国際大学内 日本生殖看護学会事務局	03-5550-2293	03-5550-2293	jsin@slcn.ac.jp	三 上	http://jsin.umin.jp
36 日本赤十字看護学会	高田 早苗	150-0012	東京都渋谷区広尾4-1-3 日本赤十字看護大学内	03-5485-5777	03-5485-5777	jrcsns@redcross.ac.jp	田母神裕美	http://jrcsns.umin.ne.jp/
37 一般社団法人 日本難病看護学会	本田 彰子	156-8506	東京都世田谷区上北沢2-1-6 東京都医学総合研究所 難病ケア看護研究室	03-6834-2290	03-6834-2291	ushi2@gunma-u.ac.jp	牛久保美津子	http://square.umin.ac.jp/intrac/
38 一般社団法人 日本放射線看護学会	草間 朋子	036-8564	青森県弘前市本町66-1 弘前大学大学院保健学研究科内	0172-39-5922	0172-39-5922	kidachi@hirosaki-u.ac.jp	木立るり子	http://www.rnsj.jp/web/index.php
39 日本母子看護学会	齋藤 益子	143-0015	東京都大田区大森西4-16-20 東邦大学医学部看護学科 家族生殖看護学研究室内	03-3762-9881	03-3766-3914	jmica2@gmail.com	山崎 圭子	http://jmica.kenkyuukai.jp/about/
40 日本慢性看護学会	黒江ゆり子	501-6295	岐阜県羽島市江吉良町3047-1 岐阜県立看護大学内		058-397-2312	jscicn-office@umin.ac.jp	藤澤まこと 星野 純子	http://jscicn.com/
41 日本ルーラルナース 学会	春山 早苗	329-0498	栃木県下野市薬師寺3311-159 自治医科大学看護学部内	0285-58-7512	0285-44-7257	ynagai@ms2.jichi.ac.jp	永井 優子	http://www.jasrun.org/
42 一般社団法人 日本老年看護学会	堀内 ふき	162-0825	東京都新宿区神楽坂4-1-1 株式会社ワールドプランニング内 一般社団法人日本老年看護学会事務センター	03-5206-7431	03-5206-7757	rounenkango@nqfm.ftbb.net	江頭麻衣子	http://www.rounenkango.com/
43 北日本看護学会	塩飽 仁	980-8575	仙台市青葉区星陵町2-1 東北大学大学院医学系研究科保健学専攻 家族支援看護学講座小児看護学分野			liaison@njans.net	小林 淳子	http://www.njans.net
44 日本ニューロサイエ ンス看護学会	大久保暢子	104-0044	東京都中央区明石町10-1 聖路加国際大学大学院 看護学研究科	03-3543-6391	03-5565-1626	nobu-okubo@slcn.ac.jp		http://www.jann-2012.com
45 日本フォレンジック 看護学会	加納 尚美	300-0394	茨城県稲敷郡阿見町阿見4669-2 茨城県立医療大学保健医療学部看護学科 加納尚美研究室内 日本フォレンジック看護学会事務局 阿部宛	029-840-2181		mail@jafn.jp	阿 部	http://jafn.jp/
46 日本産業看護学会	河野 啓子	807-8555	福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘1-1 産業医科大学 産業保健学部 産業・地域看護学講座内 日本産業看護学会事務局	093-691-7160	093-692-0259	jaohnadmin@mbox.health.uoeh-u.ac.jp	中谷 淳子	http://www.jaohn.com/
47 看護教育研究学会	森 千鶴	305-8575	茨城県つくば市天王台1-1-1 筑波大学大学院人間総合科学研究科	029-853-8062	029-853-8062	info@nihonkango.jp	森 千鶴	http://nihonkango.jp

